

元香美監査第 6 号
令和元年 7 月 22 日

香美市長 法光院 晶一 様

香美市監査委員 岡本 明弘
香美市監査委員 岩崎 昭雄
香美市監査委員 小松 紀夫

平成 30 年度香美市水道事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により審査に付された平成 30 年度香美市水道事業会計の決算審査を実施したので、その結果について次のとおり意見書を提出します。

第 1 審査の概要

1 審査の対象

平成 30 年度香美市水道事業会計決算報告書

2 審査の期日または期間

令和元年 7 月 19 日、22 日

3 審査の場所

香美市役所 監査委員事務局

4 審査の内容

決算審査にあたっては、決算書類が関係法令に定められた様式に準じて作成され、水道事業の経営成績及び財政状態を適正に示しているか等の形式審査と、経営分析及び内容が適正か等の実質審査を行った。

また、公営企業の経営の基本原則である企業の経済性と公共の福祉の増進については特に留意して審査した。

第 2 審査の結果

1 形式審査

決算書類は関係法令に定められた様式に準じて作成されており、経営成績や財政状態を適正に示しているものと認められる。

2 実質審査

(1) 年度比較分析

ア 対前年度比較（以下、平成 30 年度決算と平成 29 年度決算の比較）

A 比較損益計算書

a 収益

収益に関して変動があったのは、他会計負担金（△19,095,636 円、△74.44%）である。これは昨年度の委託料が減少したことによる。また、昨年度より手数料が減ったため、その他の営業収益（△353,600 円、△26.52%）も減少した。これにより、営業収益が昨年度と比較して 8.73% 減少している。

b 費用

費用に関して変動があったのは、資産減耗費（△2,699,619 円、△78.17%）であるが、これは昨年度に比べ除却資産が少なかったためである。

c 営業利益・経常利益・純利益・各種指標

費用が減少したことにより、各種利益が増加した。

以上のことから、収益（△21,095,768 円、△8.96%）の減少に対し費用（△23,223,791 円、△11.21%）の減少が大きかったため、営業利益及び経常利益が増加となっている。

B 比較貸借対照表

a 資産

資産に関して大きな変動があったのは、機械及び装置（326,021,969 円、620.76%）の増加である。これは水源地整備事業において機械及び装置を取得したことによるものである。

b 負債

負債に関して変動があったのは、未払金（169,387,485 円、701.25%）で、これは 3 月末時点で工事費等の大きな金額の支払が完了していなかったためである。

c 資本

資本に関して大きな変動があったのは、建設改良積立金（△29,236,680円、△91.98%）で、これは水源地整備事業において建設改良積立金を取り崩しをしたためである。

d 各種指標

自己資本構成比率、総資本回転率ともに減少している。

以上のことから、資産と資本は増加し、負債も増加しているものの概ね健全な水準を維持している。

C 比較キャッシュ・フロー計算書

a 業務活動によるキャッシュ・フロー

昨年度より未払金（161,429,350円）が増額となっているが、これは工事費等の大きな金額の支払が3月末時点で完了していなかったためである。

b 投資活動によるキャッシュ・フロー

今年度は、有形固定資産を取得したため増加している。

c 財務活動によるキャッシュ・フロー

企業債の償還額を表したもので、企業債の償還に充てている。

以上のことから、当年度の現金収支の状況は投資活動による固定資産の取得を、業務活動の収入によって補っており、概ね適正である。

D 比較収益費用明細書

事業収益、事業費用ともに比較損益計算書と同じため省略する。

イ 直近5年間の推移

A 経常収支年度間比較表

a 収益

この5年間は、ほぼ横ばいに推移している。

b 費用

営業費用については、今年度は減少している。

B 業務量の推移

給水人口は減少しているが、年間給水量は増加傾向である。

3 むすび

当年度水道事業会計では、純利益が昨年度に比べて（2,128,023 円、7.57%）増加し、経常収支比率（2.86 ポイント）、営業収支比率（2.88 ポイント）も昨年度より高くなっている。

水道施設の老朽化に伴う修繕や南海トラフ地震に備えた耐震化も急務となっている。また、給水人口が減少していく中で、今後は、「香美市水道事業経営戦略」に沿って、経営健全化に取り組み、安心・安全で安定した飲料水の供給を図るよう努められたい。